



AUSTRIA NEWS



A NEWSLETTER FROM
THE AUSTRIAN EMBASSY
IN JAPAN

www.bmeia.gv.at/tokio

2009

4/4

No.25

日本におけるオーストリア

フィッシャー大統領が代表団とともに日本を訪問

日澳修交140年を記念する「日本オーストリア交流年2009」にあたり、2009年9月30日から10月3日までの期間、ハインツ・フィッシャー大統領夫妻は文化、学術および経済の幅広い領域のトップからなる140人に及ぶ代表団とともに日本を公式訪問した。この代表団には、クラウディア・シュミード教育・芸術・文化大臣、ドーリス・ブレス交通・革新・技術大臣、ラインホルド・ミッターレーナー経済・家族・青年大臣およびヨハネス・ハーン科学・研究大臣ら4人の閣僚が同行した。一行は、ハーン大臣および日本の川端達夫文部科学大臣による国立情報学研究所におけるオーストリア経済シンポジウムの開会式(シンポジウムでは同研究所とウィーン工科大学間の協定調印式が行われた)、明治神宮訪問ならびに鳩山首相官邸での実務会談と夕食会等、予定されていた多数の行事に参加した。

フィッシャー大統領夫妻はそのほかに、秋篠宮殿下、同妃殿下とともに国立新美術館で開催中のウィーン美術史美術館所蔵品の至宝特別展、「THE ハプスブルク」を鑑賞し、皇居、宮殿で天皇陛下、皇后陛下と会見した。さらに複数の国会議員との会談も日程に組み込まれた。ブレス大臣はNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)を訪れた。ミッターレーナー大臣は日本の経済産業大臣との二国間会談を行った。フィッシャー夫人のファーストレディー外交には日本・東洋の古美術品が展示されている根津美術館、さらに「Miraikan」と日本科学未来館の2つのミュージアム、さらに高島屋百貨店で開催中のウィーン・ミュージアム所蔵作品の「クリムト、シーレ、ウィーン世紀末展」訪問も設定された。シュミード大臣はNTT インターコミュニケーション・センターで行われている「コープ・ヒンメルブラウ：回帰する未来」展を訪れた。

今回の訪日のハイライトの一つは、天皇、皇后両陛下も鑑賞されたウィーン・フィルのメンバーによる五重奏団コンサートである。ユッタ・シュテファン＝バストル駐日オーストリア大使主催のレセプションでは、代表団はふたたび秋篠宮両殿下ご臨席の光栄を賜った。

帰国前日に代表団は京都と大阪を訪れ、最初に歓迎を受けた大阪城でエッゲンベルグ城と大阪城の学術交流提携の調印式が行われた。京都の企業、京セラ株式会社では、おもに太陽電池分野の自社製品の説明を受け、その後、清水寺を訪問した代表団は、京都迎賓館において行われた京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭共催の夕食会で締めくくった。



WAT シュタードラウ柔道クラブが荒川区柔道会(東京都)を親善訪問

日本オーストリア交流年2009とレオポルド・ヴェーデル元区長からの訪日の勧めを機にWAT シュタードラウ柔道クラブの8人の訪問団が7月3日から24日まで荒川区の姉妹協会を来訪した。参加者は、エリーザベト・トラクスラー、フォルカー・トラクスラー、ヴァルトラウト・カリミアン、アムジャッド・カリミアン、アンドレア・シュトゥーラー、マルティン・シュトゥンプ、ミヒャエラ・ヴァイドリンガーおよび団長ノルベルト・エレンツヴァイクの諸氏である。

一行は、訪問先の荒川区柔道会メンバーの案内による東京の観光地見物のほか、古都京都

への小旅行を行い、オーストリア人トレーナー、ルネ・フーガー氏(九州大学)を福岡に訪ねるなど内容豊富なスケジュールをこなした。また、西川太一郎荒川区長を訪問し、区議会議長茂木弘氏、そのほか荒川区の複数の有力区議と会見を行ったことは日程後半のハイ

ライトであった。荒川区柔道会が2007年の「WAT シュタードラウ柔道クラブ設立50周年」記念の年に親善訪問を行って以来、双方の友好関係は親密さを増している。



上智大学におけるオーストリアをテーマとした連続講演会

日本オーストリア交流年2009にあたって東京の上智大学ヨーロッパ研究所において5月から6月にかけてオーストリアに関する一連の招待講演会が開催された。この催しは5月11日、在京オーストリア大使館文化担当官であるミヒャエル・ハイダーによる「多民族国家の一つのモデルとしての世紀転換期におけるオーストリア」をテーマとした講演会で幕を開けた。

第2回目の講演会は、ニクラス・サルム＝ライファーシャイト氏(シュタイレク)による「外交官青木周蔵の明治期における日・独関係外交への貢献」(5月14日)であった。講演者ニクラス・サルム＝ライファーシャイト氏は、現役オーストリア人講師のイニシアチブとオーストリア文化フォーラムの後援を受けて日本に招待され、

東京および那須塩原での10日間に及ぶ講演旅行の日程を終えた。これら2つの催しは、同時に上智大学の日・EUフレンドシップウィークの一環としても行われた。

連続講演会を締めくくったのは、ヘルタ・エッシャー＝ヘロルド女史(チューリヒ)による「エリザベト：皇后になりたくなかった皇妃」(6月23日)である。

また、同研究所の定期刊行物「上智ヨーロッパ研究」もオーストリアをテーマにした内容に力を入れており、たとえばオーストリアに関する経済関係あるいは建築史など異なる分野からの複数の寄稿を今年刊行の号にまとめる予定である。

オーストリア・日本 青年交流



ÖJAB(オーストリア勤労青年連盟)の7人の寮生および3人の奥日協会会員が交流プログラムにより2009年8月3日から8月18日までの期間、日本旅行の機会を得た。滞在中の世話役は、ÖJABのパートナー団体「海友会」であった。一行は和歌山城見学、塗盆の彩色などを体験、また和歌山大学学長による案内を受けてあちこち回り、さらに温泉入浴、童楽寺見学を行った。童楽寺では日本の剣道や合気道の実演も見学し、高野山も訪れた。

青年たちは日本について多くの新たな感銘を得たが、そのお返しとして、オーストリアに関するプレゼンテーションを作成し、それを和歌山市内の施設「ビッグ愛」で発表、その後10人は田辺市や白浜海岸へ繰り出した。寿司やカラオケ、日本伝統の茶の湯も体験することができた。旅の最後の2日間は京都で過ごし、二条城、金閣寺、三十三間堂寺院および清水寺を訪れた。14日間に及ぶ日本滞在のなかでもこの京都滞在は、日本文化について特に印象に残るものだった。



リンツ 2009: レントスにおける展覧会「See this Sound」

コジマ・ライナーが監督した展覧会「See this Sound」が2010年1月10日までリンツの現代美術館レントスで開催されている。このプロジェクトは芸術、メディアおよび知覚における画像と音の結合を題材とした、造形芸術とメディアアートの密な結合である。このアートの発展の歴史は、美術館の個々の独立した空間内で展示されている。それらは、1920年代の「ビジュアル・ミュージック」、映画と音楽が密に結合した「絶対映画」、ヴィキング・エッゲリングの新しい形式言語による「対角線交響楽」、ジョン・ケージのいわゆる「境界線の芸術」、オノ・ヨーコおよびジョージ・ブレヒトの初期フルクサス、プライオン・ガイシンの発明した、長時間見つめると瞑想状態をひきおこす“回転ドリームマシーン”

による「新しい知覚方法」などである。作曲家でありピアニストでもあるラ・モンテ・ヤングの「ドリーム・ハウス」も出展されている。

ウェブアーカイブへのアクセス：www.see-this-sound.at



フォアアールベルク州選挙 2009



9月20日に行われたフォアアールベルク州選挙では、ヘルベルト・サウスグルーバー州政府首相率いるオーストリア国民党(ÖVP)が州議会において絶対多数を維持した。

有権者数は261,132人、投票率は67.41%であった。

最終結果： オーストリア国民党(ÖVP) …… 50.79 % (-4.13%)
オーストリア自由党(FPÖ) …… 25.12 % (+12.18%)
緑の党(Grüne) …… 10.58 % (+0.41%)
オーストリア社会党(SPÖ) …… 10.02 % (-6.85%)

議席数： オーストリア国民党 …… 20 (-1)
オーストリア自由党 …… 9 (+4)
緑の党 …… 4 (±0)
オーストリア社会党 …… 3 (-3)

ニキ航空が旅客数・売上・旅客機の増加を報告

ニキ・ラウダが経営する「低価格かつ高品質な航空会社」は、スカイヨーロッパ航空の破産やルフトハンザとオーストリア航空(AUA)間の取引にEUが課した条件によって、ラウダ氏自身も思ってもいなかったようなメリットを享受している。

会社が経済危機にもかかわらず、上半期には旅客数で25%、売上20%、業績も30%の増加を達成したと、ラウダ氏は9月14日ウィーンにおいて説明した。下半期については「むしろ慎重である」と述べたが、その理由として、旅客一人あたりの売上額が最終的に下向きであったこと、またルフトハンザ/オーストリア航空の新方針をまだ見きわめることができないことを示した。しかしラウダ氏は、昨年度達成した710万ユーロ(税引き後)という記録は、上回るとの見通しであるとした。2012年以降ニキ航空は、現在12機体制で運航している飛行機を16機に増強する予定である。その際、ラウダ氏のパートナー、エア・ベルリン(約24%)から新しい機材が2機リースされることになる。

すでに2009年11月以降はウィーンからフランクフルトまで1日3便のフライトを予定しており、これは欧州委員会がルフトハンザおよびオーストリア航空にこの区間の発着枠を手放すことを強く求めたために実現した。2010年2月以降ニキ航空は、ソフィア、ブカレストおよびベオグラードへの便を毎日運航したいと考えている。「これらの都市は“長期的成長市場”であり、ハブ空港ウィーンにとって重要な就航先である。」とラウダ氏は強調した。



ブルーノ・クライスキー賞 2008

アレクサンダー・クルーゲ氏、オスカル・ネグト氏が受賞

9月18日に国際会議場ブルーノ・クライスキー・フォーラムにおいて、アレクサンダー・クルーゲおよびオスカル・ネグト両氏の「ジャーナリスト的な作品全般」に対し、2008年政治本に贈られるブルーノ・クライスキー賞が授与された。あいさつと称賛の辞を述べたのは前の連邦首相であり、レナー研究所総裁のアルフレート・グーゼンバウアー氏であった。そのほか連邦首相ヴェルナー・ファイマン氏および欧州議会議員であり審査委員長も務めたハンネス・スウォボダ氏が賛辞を述べた。

オスカル・ネグト氏とアレクサンダー・クルーゲ氏が受賞した本賞のほか、功績賞が授与された。功績賞受賞者は、ギムナジウム教師ベルンハルト・クシェイ氏『Die Wodaks(ヴォダックス家の一族)』、文化コーディネーター・ジャーナリストのエヴェリン・シュタインターラー女史『Frauen 1938(1938年の女性)』、ならびにインスブルック大学の政治学者、エリカ・トウルナー女史とアレクサンドラ・ヴァイス女史『Johanna Dohnal – Innenansichten österreichischer Frauenpolitiken(ヨハンナ・ドーナール – オーストリア女性政策の内側)』の諸氏である。

ウィーン・アートウィーク 2009

11月16日から22日までの期間、およそ60の催し物が開催されるウィーン・アートウィークは、バロック時代から現在までの芸術を題材として毎年行われる行事のなかでは最大規模である。

過去5年間、このアート週間はウィーンの芸術の現場で活躍する国際的に優れた美術館長、学芸員、コレクター、批評家が一堂に会する機会をつくり、また芸術の多様性も浮き彫りにしている。 www.viennaartweek.at

meet art



SAVE THE DATE
NOVEMBER 16-22
VIENNA ART WEEK 2009
www.viennaartweek.at

音楽の都は、 翼をもっている。 オーストリア航空

成田から週6便、ノンストップでウィーンへ。
ヨーロッパ各地への乗り継ぎは、最短わずか25分。
東欧、中欧へはヨーロッパ最大級のネットワーク。
新ビジネスクラスwebオープン! www.austrian.com

Austrian
Fly with a smile.

A STAR ALLIANCE MEMBER



発行者: オーストリア大使館
編集: ゲオルグ・ベスティンガー
デザイン: ハイアートデザインスタジオ

当刊行物は2009年9月1日現在の資料を基に細心の注意を払って編集しておりますが、内容変更や記述によって生じたトラブルに関し発行者は法的責任を一切負いません。

Herausgeber: Österreichische Botschaft
Redaktion: Georg Pöstinger
Gestaltung: HIART DESIGN STUDIO

Änderungen vorbehalten. Für die Richtigkeit und Vollständigkeit der Angaben kann keine Gewähr übernommen werden.

www.bmeia.gv.at/tokio

オーストリア大使館

〒106-0046 東京都港区元麻布 1-1-20
1-1-20 Moto Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-0046 Japan
Tel. 03-3451-8281 Fax. 03-3451-8283
e-mail: tokio-ob@bmeia.gv.at

Österreichische Botschaft
Austrian Embassy